

# 藤里町まちづくり計画

～ 持続可能な町・ふじさと ～

平成26年3月

秋 田 県 藤 里 町



藤里町「まちづくり」計画  
＜基本構想＞

## ◆ 発刊にあたって

### 「持続可能な町・ふじさと」の構築に向かって

大自然の中で、「うるおい」「豊かさ」「やすらぎ」を実感できる町は、多くの町民が望んでいる町の姿であり、永遠の課題でもあります。

国の経済は、バブル経済崩壊により長引いていた景気低迷の中で、デフレと円高からの脱却と名目3%以上の経済成長の達成などを目標に、「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」の三つの基本方針、いわゆるアベノミクス経済政策が発表され、日本経済の復活に向けた取り組みが動き出しました。

このような中藤里町は、町制施行50周年を契機に更なる発展と創意工夫による地域資源を活用した独自の町づくりを進めるため、町の発展性をあらゆる面から追求した「藤里町まちづくり計画」を策定し、将来の基本的方向を示すものであります。

この計画は、「持続可能な町・ふじさと」の実現のため、白神山地の特性と資源を活かした特産品のブランド化や生活環境の整備、保健・医療・福祉の充実、未来を担う人材の育成を基本としています。私は、“町民総参加の町づくり”をめざし、町の発展に向けて基本構想の実現に努める所存です。

基本構想の実現には、町民のみなさんの積極的参加をお願いしなければなりません。

また、国、県など関係機関の一層のご協力、ご指導を衷心よりお願い申し上げます。

平成26年3月

藤里町長 佐々木 文明



## ◆藤里町民憲章

昭和53年9月12日制定

わたしたちは、町章や町民歌の意を心とし、自分も大きな輪のなかのひとりであることを自覚して、より豊かな、明るい、住みよい、文化的な福祉の町をつくり、たゆまない発展をするために、次の町民憲章を守りましょう。

1. 健康でたのしく  
仕事に励みましょう。
1. 清く美しい  
郷土を愛し育てましょう。
1. 生涯を通じ  
学習に励みましょう。
1. きまりを守り  
互いに助け合いましょう。
1. 伝統を享けて  
創意を拓きましょう。

◆目 次

基本構想

第1編 計画策定の

趣旨と構成等 . . . . . 1

- 1. 計画策定の趣旨 . . . . . 2
- 2. 計画の性格と役割 . . . . . 2
- 3. 計画の構成と期間 . . . . . 3

第2編 藤里町の現状 . . . . . 5

- 1. 自然と地勢 . . . . . 6
- 2. 気 象 . . . . . 6
- 3. 沿 革 . . . . . 7
- 4. 人口・就業構造 . . . . . 7
- 5. 町民所得 . . . . . 9
- 6. 観 光 . . . . . 10

## 第3編 基本理念と

望ましい将来像	12
---------	----

### 第1章 魅力あふれる藤里町

基本理念・大綱	13
---------	----

### 第2章 持続可能な町の構築に向かって

ビジョン1. ふれあひあふれる美しい町づくり	14
<将来像>	14
ビジョン2. 地域に根ざした基幹産業づくり	15
<将来像>	15
ビジョン3. 健やかで明るくやさしい町づくり	16
<将来像>	16
ビジョン4. 教育文化・こころ豊かな未来を担う人づくり	17
<将来像>	17
ビジョン5. 高度情報技術を活用する町づくり	18
<将来像>	18
ビジョン6. まち・ひと・しごと総合戦略による町づくり	19
<将来像>	19
ビジョン7. 町民と行政が一つになってつくる町づくり	20
<将来像>	20
ビジョン体系図	21

### 第3章 計画の指標

1. 総人口・世帯数	23
2. 年齢別人口	23
3. 産業別就業人口	24
4. 土地利用	25
5. 県の総合計画等との関係	27





第1編

計 画 策 定 の  
趣 旨 と 構 成 等

〔 策定の趣旨  
性格と役割  
構成と期間 〕

## 1. 計画策定の趣旨

藤里町では、昭和59年3月に策定した総合振興計画において、「魅力と活力ある豊かな町」を、また平成6年3月に策定した総合振興計画では、「こころふれあうふるさと藤里」、平成16年3月には「緑と魅力あふれる町・ふじさと」を基本理念に掲げ、これをまちづくりの指針として、町勢の発展、向上に努めてきました。

しかしながら、藤里町の現状は若年層の流出や少子高齢化の進行、長引く景気低迷による産業の停滞など、新たな施策を講じる必要に迫られています。

このような状況の中で、藤里町は単独立町を宣言し、早10年が経過しました。町のさらなる発展と農山村特有の小規模な自治体ながらも魅力ある町にするため、町独自の創造的で持続可能なまちづくりを進めていかなければなりません。

世界自然遺産「白神山地」を抱える自然豊かな町として、先人から受け継いだ資源を守りながら、町民とともに藤里町の望ましい姿を創造するための指針として、「藤里町まちづくり計画～持続可能な町・ふじさと～」を策定するものです。

## 2. 計画の性格と役割

1. この計画は、町の将来を長期的な展望に立ち、町政発展の基本的な方向を示す行財政の指針となるものです
2. この計画は、国・県などの上位計画と相互に調和しながら、町の実態に即応させたものです
3. この計画は、町の行財政運営の基本となることはもちろんですが、町民と行政が一つになって町づくりを進めるための指針となるものです
4. この計画は、町内全般の均衡ある発展を図るため、各地区間の現状を認識しながら共通の目標となることをねらいとするものです
5. この計画は、その期間が長期にわたることから、国・県の施策の変化や社会情勢に対応するため、大幅に変更があった場合は、これを補完、改定する性格を有するものです

### 3. 計画の構成と期間

この計画は、**基本構想・基本計画**および**実施計画**で構成し、それぞれの内容は次のとおりです。

#### 基本構想

基本構想は、10年後の将来像と目標を達成するため、基本となる施策の大綱を設定するものです

平成26年度を初年度として平成35年度(2023年)を目標とする10カ年計画とします

#### 基本計画

基本構想に定められた目標を達成するため、具体的な施策を明らかにすることとし、平成26年度を初年度として平成30年度を目標とする5カ年計画とします

#### 実施計画

基本計画で示された諸施策を現実的にとらえ、その施策をどのように実施していくかを具体的に示したもので、毎年度向こう3カ年をローリングします



第2編

藤里町の現状

町の特性

## 1. 自然と地勢

藤里町は、秋田県の北西部に位置し、青森県境を一辺とする逆三角形の地勢で北は白神山地、南は能代平野の延長の米代川に通じています。その形状は東西20.2km、南北22.5kmで面積は282.13km<sup>2</sup>となっています。

集落は、米代川の支流である藤琴川とその支流である粕毛川沿いに散在しています。集落と同様に、藤琴川、粕毛川沿いに狭あいな耕地が広がり、町土の91%を山林と原野が占め、北部一帯の国有林は面積が181.37km<sup>2</sup>で、64%を占めています。

世界遺産条約に基づく自然遺産に登録されている白神山地の広大なブナ林や、ここを水源とする藤琴川などは四季折々の美しい景観と豊かな資源を擁し、人々の心を和ませ、潤いを与えながら町土の浄化機能の役割を果たしています。さらに、町のシンボルでもある駒ヶ岳は、眺望の絶好地として親しまれており、町出身者のふるさと意識を育みつつける心のよりどころとなっています。

藤里町役場	藤里町藤琴字藤琴8番地	東経 140° 15' 42.7"	北緯 40° 16' 40.7"
-------	-------------	-------------------	------------------

## 2. 気象

気候は、過去10年間の平均気温が11.4℃、年間降雨量は1,224mmで、しばしば集中豪雨に見舞われることがあります。特に近年はゲリラ豪雨が頻繁に発生し、藤里町においても被害が増大しています。またここ数年は暖冬と言われながらも、冬期間の積雪が多く、最大積雪量142cm、積雪日数120日と1年の3分の1が雪に埋もれる豪雪地域です。

### ■気象状況表

区分 年度	気 温 ℃			降 水 量 mm			積 雪 量 cm			
	平均	最高	最低	降水 日数	総量	30mm 以上日数	降雪 日数	総量	最大 降雪	最大 積雪
平成15年	11.2	36.6	-10.7	87	1,050.5	5	49	288	31	50
平成16年	12.5	38.2	-10.0	104	1,271.5	16	60	437	38	81
平成17年	10.5	34.7	-12.2	102	1,111.5	11	81	719	62	125
平成18年	10.8	37.1	-17.2	107	999.5	7	59	331	27	142
平成19年	11.4	34.5	-11.2	77	904.5	6	28	115	15	35
平成20年	11.3	35.2	-12.0	84	842.0	5	63	294	24	70
平成21年	11.6	33.2	-8.1	90	1,227.9	9	55	334	27	57
平成22年	11.7	35.5	-9.0	104	1,699.8	8	47	307	34	84
平成23年	11.5	35.0	-10.0	92	1,490.6	13	69	418	20	87
平成24年	11.3	35.1	-10.4	167	1,646.3	9	70	426	43	130

(資料:能代山本広域消防 藤里分署)

### 3. 沿革

今から1,000年ほど前、桓武天皇の延暦の頃、大沢、矢坂、藤琴、太良および粕毛が集落を形成していたといわれております。

明治4年の廃藩置県、同11年の郡制施行とともに戸長を置いて行政をおこない、明治22年の町村制の実施により、藤琴村と粕毛村が生まれました。

昭和28年の町村合併促進法の施行とともに、藤琴村、粕毛村合併促進協議会を設け、昭和30年3月31日藤里村が生まれ、昭和38年11月1日町制施行により「藤里町」が誕生しました。

平成15年4月26日、町は平成の大合併に加わらず「単独立町」の道を選択しました。

平成25年11月1日には町制施行50周年を迎えております。

### 4. 人口・就業構造

平成17年の国勢調査では人口は4,348人、世帯数は1,407世帯となっておりますが、平成22年では人口は3,848人、世帯数1,313世帯となり、ついに4,000人を割りました。人口は昭和30年以降減少が続いており、過疎地域にみられる特徴として人口の減少にもかかわらず、世帯数はほぼ変わらず推移しています。これは、若年層の流出や出生率の低下はもちろんのこと核家族化の進行、高齢者のみ世帯や一人暮らし世帯の増加などが考えられます。

65歳以上の高齢者人口比率は平成17年の国勢調査で35.5%、平成22で39.2%とますます高齢化が進んでおり、深刻な問題となっております。

産業別就業人口は平成22年の国勢調査において、第一次産業が242人、第二次産業が499人、第三次産業が978人となっております。特に後継者不足などによる第一次産業の就業人口は昭和60年当時1,142人だったのに対し平成22年国勢調査においては242人と減少し、平成17年国勢調査と比較しても38.3%の減少率となっております。また、高齢化による就業率低下もみられます。

■人口および世帯、構成比推移表

年	0～14歳		15～64歳		65歳以上		総人口	世帯数
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比		
平成 2年	805	15.2	3,355	63.4	1,131	21.4	5,291	1,421
平成 7年	619	12.3	3,062	60.9	1,343	26.7	5,024	1,430
平成12年	523	11.1	2,710	57.6	1,475	31.3	4,708	1,438
平成17年	417	9.6	2,387	54.9	1,544	35.5	4,348	1,407
平成22年	344	8.9	1,997	51.9	1,507	39.2	3,848	1,313
平成23年	330	8.4	2,048	52.4	1,534	39.2	3,912	1,497
平成24年	326	8.4	2,003	51.6	1,553	40.0	3,882	1,501
平成25年	299	7.9	1,932	51.3	1,538	40.8	3,769	1,471
平成26年	264	7.2	1,838	50.5	1,542	42.3	3,644	1,439
平成27年	270	7.6	1,739	48.9	1,549	43.5	3,558	1,421

(資料:平成22年まで国勢調査、以降住民基本台帳10.1現在)

## ■人口動向

本町の人口は加速度を増しながら減少を続けています。1980年に5,837人だったのが、2015年には3,527人となっており、35年の間に6割に減少しています。今後も現在の人口減少が続いた場合、さらに人口減少が加速し、25年後の2040年には現在の人口のおよそ半分程度の1,820人にまで減少する予想となっています。

人口減少の要因としては、自然減と社会減の2つの側面があります。自然減については、死亡数は年間で70人前後と概ね横ばいで推移しているものの、出生数が漸減していることから自然減が大きくなる傾向となっています。社会減については、転出が転入を常に上回っていることから社会減は続いている状況となっていますが、社会増減については景気動向にも影響を受けるため、平成23年、24年には社会減は10人を下回るほど小さかったのに対して、平成26年は転出数が109人と多かったことから社会減は56人に増えているというように、年によって大きく変動しています。転出の大半は就職に伴う転出ですが、近年は中学校進学時や高校進学時での流出が増えています。

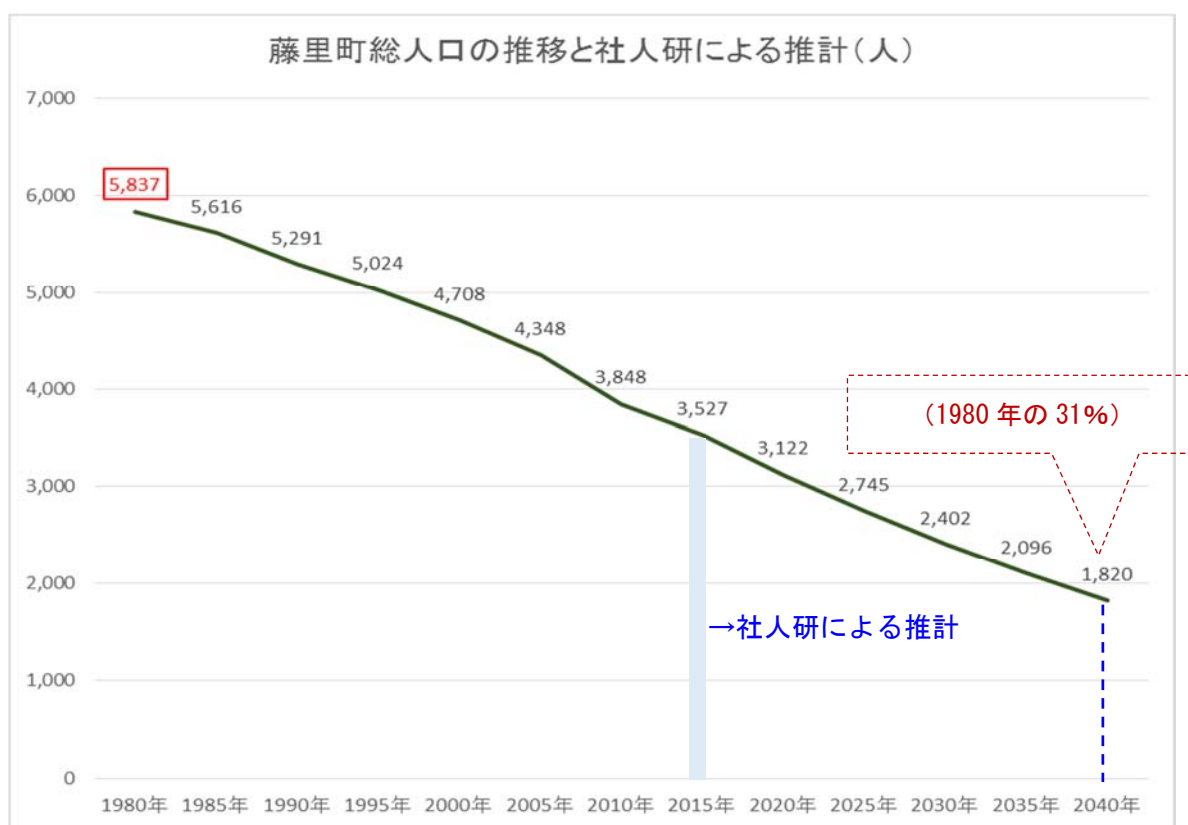


図 総人口の推移と社人研による推計

資料：国勢調査、2015年以降社人研による推計値



## ■産業別就業者数

年	第一次産業		第二次産業		第三次産業		就業人口	就業率
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比		
昭和55年	1,136	36.4	1,093	35.0	893	28.6	3,122	53.5
昭和60年	1,142	38.8	933	31.7	866	29.4	2,941	52.4
平成 2年	812	30.1	1,006	37.3	881	32.6	2,699	51.0
平成 7年	613	23.6	1,030	39.6	955	36.8	2,598	51.7
平成12年	458	20.6	823	37.0	946	42.5	2,227	47.3
平成17年	392	19.1	683	33.2	980	47.7	2,055	46.9
平成22年	242	14.1	499	29.0	978	56.9	1,719	43.3

(資料:国勢調査)

## 5. 町民所得

藤里町の町民一人あたりの所得水準は10年前と比較して105千円程の減少となっておりますが、これは全県的に減少している傾向にあります。平成22年において、全県平均を100とした場合は70.0となり、また県内で最も高い市町村と比較した場合も57.8と、20年前と同様に著しい格差が生じております。また、純生産で見ると、第一次産業、第二次産業、第三次産業もほぼ横ばいで推移しており、就業者数の変化と同じく推移していますが、産業全般の底上げが求められています。

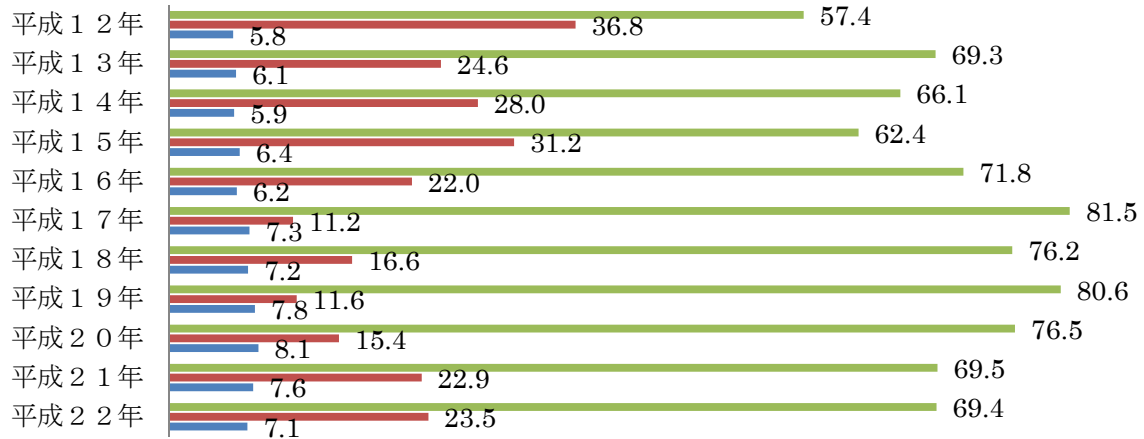
## ■町民所得

年	区分	市町村民所得 (百万円)	人口1人当たり 所得(千円)	能代・山本 (千円)	対比 (%)	市町村内純生産(百万円)			
						第一次産業	第二次産業	第三次産業	計
平成12年		8,041	1,708	2,153	79.3	511	3,229	5,039	8,779
平成13年		8,395	1,793	2,237	80.2	673	2,721	7,666	11,060
平成14年		8,109	1,768	2,211	80.0	677	3,200	7,570	11,447
平成15年		8,159	1,802	2,263	79.6	774	3,764	7,516	12,054
平成16年		7,570	1,692	2,202	76.8	632	2,254	7,362	10,248
平成17年		7,019	1,602	2,138	74.9	643	989	7,166	8,798
平成18年		6,868	1,602	2,160	74.2	670	1,550	7,127	9,347
平成19年		6,413	1,525	2,161	70.6	685	1,017	7,088	8,790
平成20年		6,144	1,487	2,022	73.5	721	1,369	6,804	8,894
平成21年		6,302	1,555	2,068	75.2	735	2,201	6,688	9,624
平成22年		6,359	1,603	2,109	76.0	688	2,269	6,706	9,663

(資料:秋田県の市町村民所得)

## 町民所得構成比

■ 第三次産業 ■ 第二次産業 ■ 第一次産業



## 6. 観光

藤里町の観光は、平成5年白神山地が世界自然遺産に登録され、平成10年にオープンした白神山地世界遺産センター「藤里館」、平成13年にオープンした産地直売所「白神街道ふじさと」とともに順調に観光客が増え、観光施設の中心的存在となっていますが、近年は、県内観光客が激減し新たな施策、観光ルートの開発が急務となっています。

藤里町は、平成24年に林道米代線(米代フォレストライン)が全線開通し、これを観光ルートとして活用することで地域資源を活かした、通年型・滞在型観光のさらなる充実が求められています。この他、平成25年にスタートした「あきた未来づくり・藤里町『白神』ブランド化プロジェクト」と並行し、素波里園地の再生整備が始まりました。

### ■観光客入込数

区分 年度	県内客数	県外客数	計	世界遺産センター	産地直売所
平成15年度	274,492	62,597	337,089	33,460	28,489
平成16年度	258,207	44,770	302,977	28,401	27,457
平成17年度	253,677	38,827	277,563	28,456	24,122
平成18年度	231,647	36,005	267,652	23,701	23,610
平成19年度	229,312	39,963	269,275	25,120	20,992
平成20年度	208,007	50,026	258,033	23,293	21,768
平成21年度	172,881	70,896	243,777	24,786	22,084
平成22年度	172,076	64,108	236,184	25,104	22,052
平成23年度	143,400	51,783	195,183	18,926	22,792
平成24年度	162,108	57,318	219,426	18,287	26,862

(資料:秋田県観光統計)



第3編

基本理念と  
望ましい将来像

〔 基本理念  
施策の大綱  
将来像  
計画の指標 〕

# 第1章 魅力あふれる藤里町

## 基本理念

藤里町は世界自然遺産「白神山地」に象徴されるように、豊かな自然を持っています。

また、平成の大合併を行わず、単独立町の道を選択し早10年が経過しました。この世界に誇る白神山地のふもとで豊かな自然とともに先人達が育んだ優れた文化を礎に、「持続可能な町の構築」を基本理念に町づくり計画を策定するものです。

藤里町をとりまく状況は、昭和30年以降続いている人口減少、少子・高齢化、誘致企業の撤退など産業構造も大きく変化し、この流れを的確に見極めながら対応を図り、時代にふさわしい町づくりを進めなければなりません。

そのためにも、先人たちによって培われた美しく豊かな自然と歴史、文化を大切にしながら、ふれあいあふれる町づくりのために、自然と共生した町の発展に努め、町民がいきいきと活力に満ち豊かな生活ができるよう、地域特性を活かした魅力あふれる産業の展開が必要です。

町づくりのテーマは人づくりです。町は人によってつくられ、人によって発展します。町民憲章の精神のもと、健康的で豊かな心を持った町民と行政がひとつになって町づくりを進めることにより、特色ある他地域にはない魅力あふれる藤里町を目指します。

## 大 綱

1. ふれあいあふれる美しい町づくり
2. 地域に根ざした基幹産業づくり
3. 健やかで明るくやさしい町づくり
4. 教育文化・こころ豊かな未来を担う人づくり
5. 高度情報技術を活用した町づくり
6. まち・ひと・しごと総合戦略による町づくり
7. 町民と行政がひとつになってつくる町づくり

## 第2章 持続可能な町に向かって

### ビジョン1／ふれあいあふれる美しい町づくり

豊かな自然に囲まれ、  
めずらしい動植物が生息し、  
清流と緑あふれる藤里町。  
ここには、ふるさとをこよなく愛する人々がいます。  
誰もがホッと癒しの空間があり、  
ゆったりとした時間を過ごすことができます。  
はじめて来た人にも、また来たいと思わせる魅力と  
こころよく迎えてくれる温かい人々がいます。  
「住みよい・住みたくなる」町をめざして、  
さらに魅力を高めていきます。

#### 《将来像》

藤里町には世界的に貴重な自然環境と歴史・文化があります。この素晴らしい財産を活かしながら、後世に伝えることは「ふるさと」として誇りのもてる町づくりの一步です。町民ひとりひとりがこの生まれ育った町に住んでいてよかったと思えるふれあいあふれる美しい町づくりをめざします。

手入れの行き届いた道路・歩道は町民の日常生活に快適さを与え、また「雪」にまつわる不安も解消され、四季を通じて快適に過ごせる生活環境が整っています。

藤里町と他町村を結ぶ広域幹線道路について、県道西目屋二ツ井線は全線整備され、観光ルートとして大きな役割を担っており、白神山地を訪れる人々が増えています。

町を横断する森林基幹道米代線(米代フォレストライン)は全線開通し、海と陸を結ぶ主要道路として利用され、盛んな物流、交流人口の往来に利用されています。

生活圏道路としては、県道西目屋二ツ井線の荷上場バイパス(藤里町矢坂～能代市二ツ井町荷上場)は完成し、安全・安心な道路として活用されています。

また、東日本大震災を教訓にし、緊急時の迅速な連絡体制の整備、食糧や飲料水備蓄、防災行政無線の高度な活用がなされています。

大館能代空港のアクセス道路として、県道矢坂糠沢線が全線開通となり、首都圏を結ぶ時間が短縮され、自然と安らぎを求める人々が訪れ、活気とふれあいにあふれています。

さらに、日本海沿岸東北自動車道の全線開通により、白神山地へのアクセスも格段に向上し、世界遺産を後世に伝承するための気運が益々高まりつつあります。

## ビジョン2／地域に根ざした基幹産業づくり

先人たちが残してくれた

恵まれた自然資源と中山間地域の特性を活かした産業の展開。

森林の持つ多面的な機能と

貴重な財産として適切な森林整備を推進します。

農・商・工連携を軸とした

観光と農林業を結びつけた産業、滞在型観光の拠点整備に努め、  
バランスのとれた発展をめざします。

### 《将来像》

農林業と観光を結びつけたユニークな地場産業は、大館能代空港の活用、日本海沿岸東北自動車道の完成とアクセス道路の整備により、首都圏、県内各地域において「白神山地」ブランドのサフォーク、和牛、まいたけ、ワイン、白神山水、りんどうなどの需要が飛躍的に伸び、それにともなって生産、供給体制が充実しています。

主要産業である農業は作業の受委託や農地の流動化、経営の組織化により大規模専業農家が多くなり、安定的な米作りと米以外の作物と合わせた複合経営によって農業所得が向上し、足腰の強い農業が確立されています。

中山間地域の特性を活かした農業は、高度な土地利用技術により生産基盤が整備され、米作、畑作の生産性が向上し、畜産業においても整備された大野岱放牧場の有効利用により、肉用牛、緬羊の飼育が盛んです。放牧場は飼育だけではなく、見学できる施設に整備され、米代フォレストラインを活用して、湯の沢温泉から素波里園地を經由し日本海沿岸に抜ける観光ルートとして確立しています。

秋田杉は樹齢45年過ぎの伐期に入ったものが所有財産の75%を超え、大径木良質材を中心に市場での好評を得るとともに、林業に対する経営意欲もますます高まり、付加価値産業が発展しています。

藤琴商店街では、集客効果を得るためのユニークな取り組みにより、さまざまな各種催し物で賑わっています。

## ビジョン3／健やかで明るくやさしい町づくり

町民が笑顔でいきいきとした生活ができるよう、  
子どもからお年寄りまで幅広く健康に対する関心を高め、  
身近に健康づくりができる環境を整備し、  
いろいろな面から健康・福祉を考えます。  
在宅介護やボランティア活動の推進による高齢化対策など  
施設の整備や行政対策、住民パワーをひとつにして、  
明るい長寿社会を実現します。  
保健・医療・福祉の連携のもとに  
健やかに明るくやさしい町を実現します。

### 《将来像》

高齢化社会や福祉社会への対応を目的として整備された、矢坂地区と三ツ谷脇地区の福祉施設ゾーンは豊かな自然に囲まれ、心休まる環境づくりが施され、各種福祉保健サービスの中心基地として、福祉向上と明るい長寿社会の形成に大きく貢献しています。

高齢者の生きがい対策として、介護予防事業の充実、各地区の公民館を活用し高齢者が集い、自立した生活のできる福祉の向上と「健康長寿」の施策の充実を図り、検診による病気の早期発見、健康教室の実施により病気の重症化予防が図られています。

超少子化時代を迎え、少ない子どもを地域の宝として、地域全体で見守っていく環境づくりや、子育て支援センターで健やかに育てるため親の心のサポートを重視し、利用しやすい環境整備のため親の意見も取り入れ、保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携により、子育ての一層の充実が図られています。また、不妊に悩む夫婦に対して経済的援助や子どもの病気予防のための各種施策が講じられています。

全ての町民の「健康寿命」を伸ばすために、総合的な福祉サービスは活発な住民参加によって幅広く展開されおり、特に保健指導や保健サービスの提供は、健康に対する町民の関心を高め、生涯学習の視点に立った総合的な健康づくりが進められています。



## ビジョン4／教育文化・こころ豊かな未来を担う人づくり

豊かな自然と文化にふれながら、  
世代をこえた交流を深め、  
人と人とのつながりを大事にする心を養います。  
教育体制のより一層の充実を図り、  
伝統ある郷土の文化を継承し、  
人の心を引きつける魅力ある人づくりをめざします。

### 《将来像》

元気で安全・安心に暮らせる町づくりを担う人材を育成するために必要な人材養成研修への派遣や、基幹産業である農林業と商工業の振興をはじめ、後継者や担い手育成を支援しています。また、ツーリズム事業の推進と、特産品や土産物品等の物作りグループの育成支援の強化を図っています。

藤里町が長い間取り組んでいる「ふるさと教育」によって、幅広い世代間交流はもちろんのこと、郷土の自然や社会、文化、産業にふれあう機会が増え、ふれあいあふれる教育環境が整っているほか、スポーツ・文化活動も意欲的に行われ、地域の連帯意識が高まり、さまざまな社会教育活動が展開されています。

町民の健康づくりは、多くの方が生涯スポーツや趣味のサークルに参加して、楽しみながら健康増進を図れる環境づくりを推進しています。

また、芸術文化協会が中心となった芸術、文化の推奨活動は、広く町民に創造活動の楽しさを実感させ、発表や展示の機会が増えるとともに、芸術文化に対する理解と意欲が高まり、芸術作品の紹介などを通じた土台づくりや環境づくりは、町民に「ゆとり」と「やすらぎ」を与えています。

国際化に対応できる人材を育成するため、学校教育においても外国語教育が重要視され、国際理解教育が強化されています。まためざましく進歩するIT化にも対応できるよう、情報教育の推進と環境整備、教育体制が充実しています。

## ビジョン5／高度情報技術を活用する町づくり

行政事務の情報化の実態を把握し、  
望ましい情報通信システムのありかたを考え、  
新しい情報化技術を活用したコミュニティネットワーク構想を推進し、  
町民の安全性、利便性、快適性を第一に、  
地域に根ざした情報化社会をめざします。

福祉に、産業に、教育に、そして生活に  
柔軟かつ的確に対応できる情報ネットワークは、  
地域活性化の呼び水となるのです。

### 《将来像》

めざましいITの発展に伴い、携帯電話の普及やパソコン通信、地上波デジタル放送によって、文字などの情報だけではなく、縦横高さの3次元に、時間を加えた3次元の立体画像がさらに動く4D画像や、音声などを含む多様で双方向の情報伝達が可能となりました。また、電子自治体の実現により、行政事務の効率化・迅速化が図られ、住民生活に必要な行政情報の提供、申請・届出等の手続きが足を運ばずにインターネット経由で行えるようになるなど、行政サービスの質的向上につながっています。

## ビジョン6／まち・ひと・しごと総合戦略による町づくり

まち・ひと・しごと創生法に基づき策定された藤里町総合戦略の目標を実現し、人口を安定維持できる町づくりを迅速に進めます。

目標達成には、バランス良い年代の移住を可能とするしごとづくりと、住みたい、帰りたい、住み続けたい里山暮らしの環境を整えます。

女性の子育てしやすい環境のさらなる充実を図り、合計特殊出生率の向上維持を目指します。

能代山本定住自立圏構想による連携など、ここで子育てを可能とするため、圏域への就職やUIターンの受け入れの取り組みを進めます。

藤里町らしい強みを磨き、藤里にある資源の域内循環を可能とする暮らしづくりを進めます。

### 《将来像》

人口減少は緩やかとなり、安定基調にあります。

町の強みである白神山地の自然と里山の暮らしは活かし合い磨かれています。基幹産業である農林業には新たな価値が創出され、稼げるしごとが生まれています。それは地元就労への回帰を生み出し、人口安定への好循環が生まれています。

20代、30代、退職世代をターゲットに絞った移住者を増やす取り組みにより、バランスのよいUターンやIターンが続いています。回帰は出身者のみならず、孫ターンの動きにも見えています。それぞれのライフステージにあわせた最適な住環境が整っています。

人を呼びたくなる、ふるさとを出た人が帰りたくなる、町を想う力を再生する取り組みは、受け入れる思いへと繋がり確実に移住者の増加に結びついています。思いから自ら行動する住民が増え始めます。取り組みを通じた多様な人材との交流は刺激となり、都市住民の憧れとなるライフスタイルが育ちはじめます。

大学卒業まで女性が不安なく子育てできる環境は整い、ここで子どもを産み育てて良かったという人々が多くいます。

健康で安心して暮らせる町となります。行き来の増えた住民はおでかけを楽しみ、相互の支え合いは強まっています。

## ビジョン7／町民と行政が一つになってつくる町づくり

「ともに考え、ともに歩む」、  
町民の意向が反映され、  
町民と行政が一つになってつくる町づくり。

長期的展望にたった財政計画と  
開かれた行政を展開するために、  
常に行政改革に取り組みながら、  
藤里町独自の町づくりを進めます。

### 《将来像》

社会経済情勢の変化や町民ニーズの動向に対応しながら、開かれた行政を展開するため、常に行政改革に取り組み、きめ細かい行政サービスと効率的な行政運営が行われています。

「ともに考え、ともに創り、ともに歩む」町民の声を聴きながら、町民と行政が一つになったさまざまなプロジェクトを展開し、藤里町独自の町づくりが進められています。

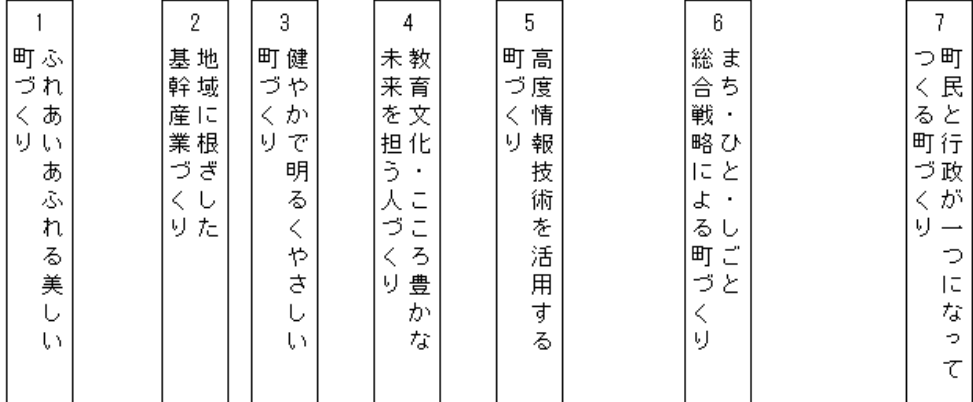
「持続可能な町・ふじさと」のビジョン実現に向け、健全な財政状況となっています。

# ビジョン体系図

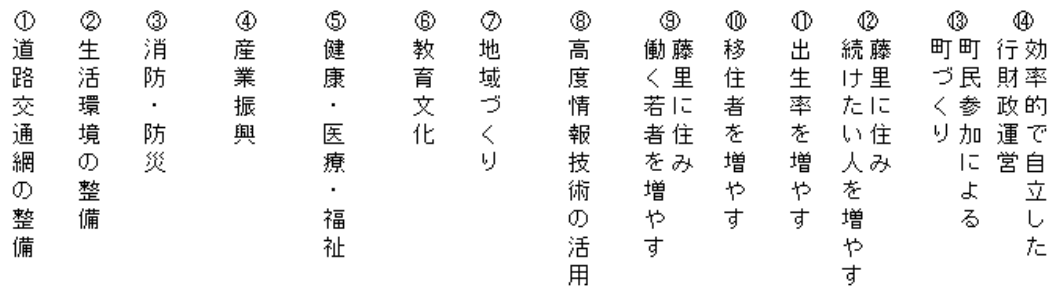
●テーマ

## 持続可能な町・ふじさと

●ビジョン



●プロジェクト





## 第3章 計画の指標

### 1. 総人口・世帯数

この計画の目標年である平成35年(2023年)の藤里町の総人口・世帯数を推定する場合、高い人口目標を掲げることはできませんが、自然減も考慮したうえで過去と比べ、減少率の幅を小さくすることは可能であると思われます。

人口減少に歯止めをかけるためには、少子化対策と人口の受け皿となる住宅環境の整備や、藤里町の特性や資源を活かした新しい産業の展開、地場産業の育成が必要です。また、町の活力を生み出すものは定住人口の増加だけでなく、新たな魅力と経済効果を与えてくれる交流人口です。人材育成と地域資源の活用により、交流人口の増加につながる新たな事業の展開に積極的に取り組んでいきます。

世帯数については、核家族化・少子化の進行や高齢者世帯の増加により、今後も横ばいで推移すると予測され、また一世帯当たり人員については、減少するものと思われます。

小さいながらも魅力ある町、住んで良かったといえる町を目指し、「持続可能な町・ふじさと」の意志と努力目標として、平成37年(2025年)の藤里町の人口を3,011人、世帯数を1,200世帯と設定します。

#### ■総人口・世帯数

年 区分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成25年	平成27年	平成37年
総人口	5,291	5,024	4,708	4,381	3,967	3,769	3,558	3,011
世帯数	1,421	1,430	1,438	1,528	1,498	1,471	1,409	1,200

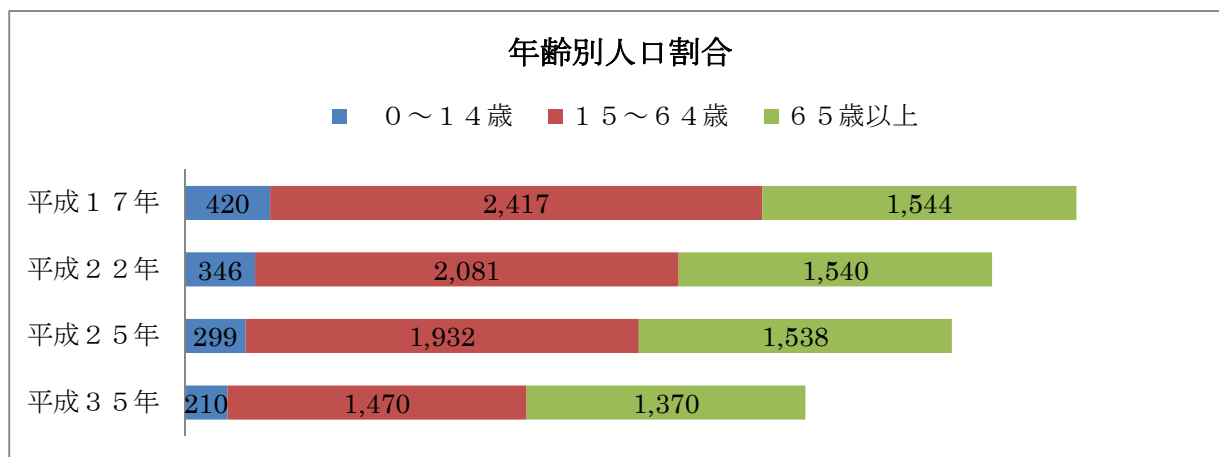
### 2. 年齢別人口

全町的には出生率の低下により若年人口(0～14歳)が減少する一方、医療福祉や健康増進プログラムの充実などにより、高齢者人口(65歳以上)は増加するものと思われます。

特に出生率の低下については全国的な問題でもあり、子ども自身が健やかに育つ環境と女性が安心して子どもを産み、育てられる環境をつくることが大切です。

## ■年齢別人口

年度 年代/区分	平成17年		平成22年		平成25年		平成35年	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
0～14歳	420	9.6	346	8.7	299	7.9	210	6.9
15～64歳	2,417	55.2	2,081	52.5	1,932	51.3	1,470	48.2
65歳以上	1,544	35.2	1,540	38.8	1,538	40.8	1,370	44.9
計	4,381	100.0	3,967	100.0	3,769	100.0	3,050	100.0



## 3. 産業別就業人口

農業を中心とする第1次産業就業人口は、認定農業者等の担い手への農地の集約化や高齢化などにより減少すると思われます。

第2次産業就業人口は、人口減少と並行し社会的流れから減少すると思われます。

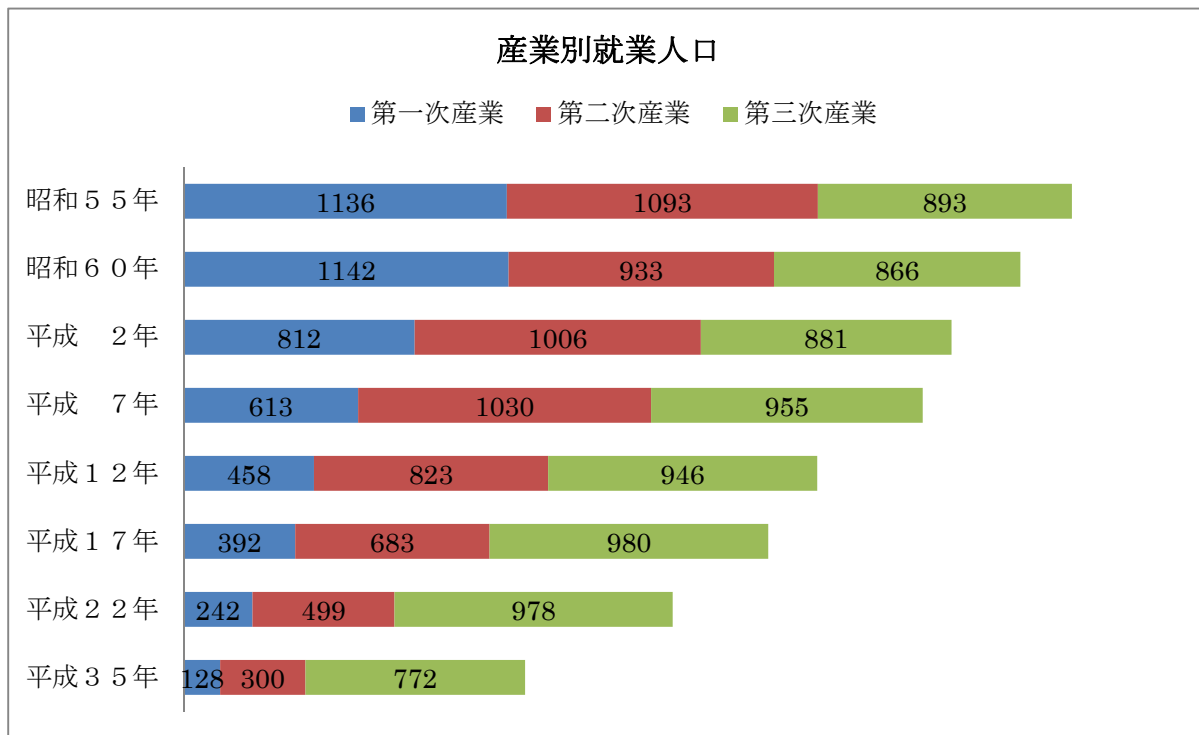
第3次産業就業人口は、横ばいに推移すると思われます。

## ■産業別就業人口

年 区分	第一次産業		第二次産業		第三次産業		就業人口	就業率
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比		
昭和55年	1,136	36.4	1,093	35.0	893	28.6	3,122	53.5
昭和60年	1,142	38.8	933	31.7	866	29.4	2,941	52.4
平成 2年	812	30.1	1,006	37.3	881	32.6	2,699	51.0
平成 7年	613	23.6	1,030	39.6	955	36.8	2,598	51.7
平成12年	458	20.6	823	37.0	946	42.5	2,227	47.3
平成17年	392	19.1	683	33.2	980	47.7	2,055	46.9
平成22年	242	14.1	499	29.0	978	56.9	1,719	43.3
平成35年	128	10.7	300	25.0	772	64.3	1,200	39.3

(資料:国勢調査)





## 4. 土地利用

土地は町民生活と生産の基盤となる貴重な資源であり、その有効利用は町づくりを進めるにあたって、重要な位置づけとなります。

藤里町は、白神山地を水源とする藤琴川、粕毛川流域の狭あいな土地に、農地、住宅地が散在しており、土地利用にあたっては地域特性を十分に考慮し、景観に配慮しながら総合的かつ計画的な調整をおこない、有効利用を図る必要があります。

### 【農業用地】

生産性の高い農業経営のために、担い手農家などへの農地の利用集積を進め、さまざまな支援による優良農地の保全・確保に努め、また農地の利活用と農地の持つ多面的な機能を保全するため、不耕作地発生防止策に努めます。

### 【森林地域】

森林資源の経済的機能を高めるため、生産基盤の整備を促進します。

藤里町の全面積の約90%を占める森林は、経済機能だけでなく白神山地をはじめとする国土(町土)保全、水資源のかん養、保養休養の場の提供などの機能があります。多様化する木材需要や多面的な森林活用に努め、計画的な伐材・再造林等の森林整備を図ります。

## 【宅 地】

住宅地については、自然環境や農林業などと調和を図り、魅力ある住宅環境の整備に努め、また住宅地の居住環境を高めるために、安全性を考慮した生活道路の整備や河川の水質保全のため整備してきた公共下水道・集落排水・合併浄化槽の適正な維持管理に努めます。

## 【観光・レクリエーション】

白神山地をフィールドとして、環境保全の大切さを伝えるためのエコ・ツーリズムの展開と、白神山地の特性を活かした農家民宿等宿泊施設の開設による遊休農地等の利活用に努めます。

また観光ルートの整備、天然記念物、景勝地など藤里町の歴史を知ることのできる財産の保全に努めます。

## 5. 県の総合計画等との関係

### ○ 第2期ふるさと秋田元気創造プラン(平成26年度から29年度までの4年間)

秋田県では、社会経済情勢の変化に対応し、秋田の成長を目指す観点から、「付加価値と生産性の向上による売り込み強化」「交流人口の拡大と県内流動の促進による消費拡大」、「人と地域の安全・安心の確保」を重要な視点としてとらえ、推進すべき施策として次の6つの戦略をあげています。

#### 戦略1 産業・エネルギー戦略

- ・ 企業の経営基盤強化と地場産業振興
- ・ 秋田の成長を牽引する企業の育成と成長分野への新たな事業展開
- ・ 「新エネルギー立県秋田」の創造と環境・リサイクル産業の拠点化

#### 戦略2 農林水産戦略

- ・ オール秋田で取り組むブランド農業の拡大
- ・ 付加価値と雇用を生み出す6次産業化の推進
- ・ 地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成

#### 戦略3 観光・交通戦略

- ・ ビジネスとして継続・成長していく総合戦略産業としての観光の推進
- ・ 秋田の食の魅力の磨き上げと県外への販路拡大
- ・ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進

#### 戦略4 健康・医療・福祉戦略

- ・ 元気で長生きできる健康づくりの推進
- ・ 高齢者・障害者などを地域で支える体制づくり
- ・ 民・学・官一体となった総合的な自殺予防対策の推進

#### 戦略5 教育・人づくり戦略

- ・ 自らの未来を切り開き社会に貢献する人材の育成
- ・ 確かな学力の定着と独創性や表現力の育成
- ・ 高等教育の充実と地域貢献の促進

#### 戦略6 人口・協働戦略

- ・ 官民一体となった少子化対策の推進
- ・ 地域の人材や資源を生かした地域力の向上
- ・ 人口減少社会を踏まえた地域コミュニティの再構築

発行

**秋田県藤里町**

秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴8番地

TEL 0185-79-2111(代)

FAX 0185-79-2293

編集

藤里町総務課

発行日

初版 平成26年3月

第2版 平成28年3月

藤里町「まちづくり」計画  
＜前期基本計画＞

～ 持続可能な町・ふじさと ～



# 目 次

ビジョン1. ふれあいがふれる美しい町づくり	1
プロジェクト1    道路交通網の整備	2
プロジェクト2    生活環境の整備	2
プロジェクト3    消防・防災	3
ビジョン2. 地域に根ざした基幹産業づくり	5
プロジェクト4    産業振興	6
ビジョン3. 健やかで明るくやさしい町づくり	9
プロジェクト5    健康・医療・福祉	10
ビジョン4. 教育文化・こころ豊かな未来を担う人づくり	13
プロジェクト6    教育文化	14
プロジェクト7    地域づくり	15
ビジョン5. 高度情報技術を活用する町づくり	17
プロジェクト8    高度情報技術の活用	18
ビジョン6. まち・ひと・しごと総合戦略による町づくり	19
プロジェクト9    藤里に住み働く若者を増やす	20
プロジェクト10    移住者を増やす	21
プロジェクト11    出生率を増やす	22
プロジェクト12    藤里に住み続けたい人を増やす	22
ビジョン7. 町民と行政が一つになってつくる町づくり	23
プロジェクト13    町民参加による町づくり	24
プロジェクト14    効率的で自立した行財政運営	24





ビジョン1

生活環境

ふれあひあふれる  
美しい町づくり

豊かな自然環境のなかで「住みよい町」  
「住みたくなる町」をめざし、生活環境の  
整備を進めます

## プロジェクト1

### 道路交通網の整備

道路は人や物の流れをよりスムーズにし、町全体の活力を高める大切な役割を担っています。

このような中で、藤里町の持つ豊かな自然と景観に配慮し、主要な生活圏道路である県道の整備を積極的に要請していくとともに、町民の要望を踏まえつつ、地区内、地区間道路の計画的な整備と「藤里町橋梁長寿命化修繕計画」に基づく整備に取り組んでいく必要があります。

#### 〔1〕道路・橋梁の整備

- ①町民の利便性、安全性、快適性に配慮し、生活に深く関わりのある道路・橋梁や歩道の整備に努めます。

#### 〔2〕交通安全施設の整備

- ①町民の安全性を第一に考え、防護柵や区画線の計画的整備に努めます。さらには、観光客や防災に備えた案内標識を充実させます。

## プロジェクト2

### 生活環境の整備

藤里町は、少子高齢化がますます加速化しています。企業の撤退などにより若者の都市部への流出が進み、人口減少の社会的要因の一つになっています。

しかし、誰もが一度は藤里町に住んでみたい、藤里町に戻りたいと思える魅力ある町、住みよい町にすることが人口減少の歯止めにつながると考えます。そのため、自然とリンクした雇用環境、住居環境、生活環境の整備に努め、交流人口を拡大し、定住を促進します。

#### 〔1〕生活しやすい環境づくり

##### ①生活環境

簡易水道の整備（セメント管更新）、公共下水道や合併浄化槽の維持に努めます。また、ゴミの減量対策や水質調査を行い、安全な町づくりを進めます。さらには、生活路線バスの確保や冬期間の除雪体制強化に取り組めます。

##### ②住みやすい環境づくり

公営住宅は耐震化を進め災害に強い環境を整え、民間住宅に対してはリフォーム助成など各施策を展開し、住みやすい環境づくりに努めます。

## 〔2〕美しい自然環境を育む町づくり

- ①美しい自然環境を育む町として住民ボランティアによる道路沿線の花・木の植栽を推進し、景観を花と緑で美しく保ち、町民や観光客が年間を通して和めるような町づくりを進めます。また河川内の支障木の伐採により景観を良くし、増水の際には流木が橋や堤防を損壊しないように努めます。また、町の入口に位置する旧清掃センターは、早期に解体することを検討します。

### プロジェクト3

## 消防・防災

藤里町は、交通死亡事故ゼロの日数が4,500日を超え東北最長の記録となっており、交通安全対策をさらに推進していきます。また、広域消防の充実と町内の消防団における消防力を強化するとともに施設整備に努めます。また、防災対策の面では、東日本大震災を教訓に防災行政無線のデジタル化や防災情報システムを構築し、災害時に対応するための物資・資材の備蓄に努めます。

## 〔1〕安全・安心な町づくり

### ① 防犯対策

交通指導員、防犯指導員の確保と強化を図るとともに交通指導車の更新を行い、町民が自ら交通安全、防犯意識を高めることに重点をおきます。また、交通死亡事故ゼロを継続するため、交通死亡事故ゼロ告知板の更新に努めます。交通死亡事故ゼロは告知することで町民意識を高めゼロ日数の延伸に繋がります。

### ②消防対策

消防団の活動を強化し、消火栓や各分団の消防器具置き場等の施設、設備の維持管理に努めます。また、広域消防の施設整備や消防救急無線をデジタル化することで、有事の際の素早い対応を可能にします。

### ③防災対策

防災行政無線をデジタル化することで秋田県、広域市町との連携をスムーズに行うことが可能となります。また、町民に対しても、速やかに情報伝達することに努めます。さらに、常に備蓄に心がけ災害時に備えます。災害時には、要援護者支援システムを活用し、要援護者の支援もスムーズに行うよう努めます。



産業振興

地域に根ざした  
基幹産業づくり

藤里町の特性や恵まれた資源を  
活かした産業の振興、展開を図り  
ます

## プロジェクト4

### 産業の振興

活力あるまちづくりを実現するためには、従来の農林業、商工業、観光、サービス業などに新たな付加価値を付け、地域に根ざした基幹産業を進めます。また、藤里町の特性や恵まれた資源を生かし「白神ブランド化」を目指します。

#### 〔1〕観光産業の育成

##### ①藤里開発公社の体制強化

一人株主となった藤里開発公社の体制を強化し、雇用の場の確保と創意工夫による経営安定に努めます。

##### ②産業としての環境整備

湯の沢温泉郷一帯の整備、素波里園地再生、白神山地周辺の環境美化、観光案内看板の設置などを行い、産業としての環境整備に努めます。

#### 〔2〕地域資源を活用した特産品の振興

①白神山水、白神まいたけ、白神牛、白神ラム、白神ホゲット、白神ワイン、白神りんどうなどをオール白神によるブランド化を目指し、積極的な売り込みにより販路を拡大することで所得の向上に努めます。

#### 〔3〕商工業の振興

①中小企業への融資事業や商工会への補助事業を通して、町の雇用や消費を促進し、町の活性化に努めます。

#### 〔4〕農業の振興

##### ①経営基盤の整備

圃場や老朽ため池などの整備を行い、経営基盤の強化に努めます。

##### ②経営安定化対策

機械設備等の近代化施設への支援、一斉防除(無人ヘリ)の推進などにより、経営の安定化に努めます。

##### ③農畜産物の販売促進

りんどうのブランド化や販路拡大、新たな食の開発による試食会開催などにより知名度と所得の向上に努めます。

##### ④後継者の育成

青年就農給付金事業を活用し、高齢化、後継者不足対策に努めます。

#### ⑤農地保全対策

水田耕作放棄地を解消し、農地・水・環境保全向上対策に努めます。

### [5]畜産振興

#### ①白神和牛の振興

あきたの白神和牛として経営助成を行いブランド化します。また大野岱放牧場を見学できる施設として整備に努めます。

#### ②白神綿羊の振興

あきたの白神ラム肉としてブランド化し、藤里町の一押し特産品として売り出すことに努めます。施設の整備、技術員の養成、販売拡大をサポートします。

### [6]林業の振興

#### ①林業振興事業

藤里町の6割が山林という状況の中で、自然との共生、共存を図るため里山保全に努めます。

#### ②町有林の管理運営

森林整備と環境保全など造林事業を展開し林業再生を図ります。また、林道の維持補修を行い効率の良い事業を展開します。





健康・医療・福祉

健やかで明るく  
やさしい町づくり

町民同士が支え合い、健やかで  
生きがいをもって暮らせる明るく  
やさしい町を実現します

## プロジェクト5

### 健康・医療・福祉

健康は、私たちの大きな財産です。この財産を守るため健康管理は大切な条件です。

保健・医療体制やスポーツ、レクリエーション環境の充実を図り、町民自らが、“自分の健康は自分で守る”意識を持ち、健康に対する関心をさらに高めていくような環境づくりを推進します。

#### 〔1〕保健・健康と予防

##### ①健康管理と予防

町民一人ひとりが生涯を通して心身ともに健康に過ごすためには、健康的な生活習慣を身につけることが大切です。そのため、健康管理システムの充実により、集団検診、人間ドック、各種ガン検診を推進し、自ら健康を大切にできる環境を整備します。

また、身体だけの健康のみならず、心の健康づくりにも重点をおきます。さらに、予防接種を推進し、子どもから高齢者まで元気に暮らせる町づくりを目指します。

##### ②生涯スポーツの振興

健康を維持するために各種スポーツ施設の整備に取り組みます。また、スポーツ推進のための人材育成、スポーツ教室の開催などにより生涯スポーツの振興を図ります。

#### 〔2〕医療の充実

##### ①医療

安心して暮らせる町づくりに欠かせないのは医療の充実です。町営歯科診療所の設備の充実を図るとともに、広域総合病院などへの支援を計画に沿って行い、町民の安心感を高めます。また、少子化対策としても有効な特定不妊治療などへの支援を行います。

#### 〔3〕福祉の充実

##### ①児童福祉の充実

就労女性の増加や核家族化による育児機能低下などにより、育児支援のニーズが高くなっており、さまざまな保育需要に対応するため、子育て支援センター・三歳未満児保育・延長保育・放課後児童クラブなどの更なる充実を図ります。

##### ②高齢者福祉の充実

平成22年度国勢調査において38.3%であった高齢化率が平成25年10月ではとうとう40%の大台に達した藤里町において、高齢者福祉対策は重要な問題です。高齢者の健康維持・増進のため、健康管理体制を充実させ、社会参加の機会を拡充し、いきいき暮らせる町づくりに努めます。また、冬期間の除排雪の支援や介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供できる生活支援ハウスの充実、さらには、介護予

防に重点をおき、高齢者が元気に暮らせる環境整備を推進します。

③障害者福祉の充実

障害者は年々増加傾向にあり、重度化・重複化の割合も高くなっています。

このような中で、障害者が自ら立ち上がり人生を楽しめるように自立支援事業に重きを置いてサービスの提供に努めます。

④福祉の充実

社会福祉協議会、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、グループホームなど各施設と連携し、ケースに沿った充実したサービスが受けられるようにします。

⑤社会保障制度＜国＞

自営業者、農業者のための国民健康保険事業の充実、人工透析者への交通費支援などに努めます。



教 育 文 化

教育文化・こころ豊かな  
未来を担う人づくり

ふるさを愛し、藤里の未来を担う  
人づくり・町づくりに努めます

## プロジェクト6

### 教育文化

町の将来を担う青少年が健全に育っていくことは町民全ての願いであります。

また、今後の地域づくりのためにも、青少年の健全育成は非常に重要な役割を果たします。

このため、藤里町は恵まれた自然資源、環境を活かしたふるさと教育を推進し、豊かな創造性と郷土愛に満ちた子どもたちを育成します。さらには、多くの町民が生涯スポーツを楽しめるよう環境づくりを推進します。

#### 〔1〕教育文化・こころ豊かな未来を担う人づくり

##### ①教育助成事業

誰でも高度な教育を受ける機会を得ることができるように、奨学資金の支援を行います。また、安全・安心に通学することができるようにスクールバスの運行を充実させます。さらに、芸術鑑賞などにより芸術への意識の高揚を図ります。

##### ②教育振興事業

小学校においては、障害児支援、学用品扶助を行い教育振興に努めます。また、中学校では、小学校同様学用品扶助やパソコンなど教育備品を充実させ教育振興に努めます。さらには、この町をこよなく愛し、将来この町で暮らしたくなるようなふるさと教育を充実させます。

##### ③児童生徒の健康管理

自分の健康は自分で守るという意識が育つように、健康教室を開催します。そして、健康診査の支援に努めます。

##### ④教育施設の維持管理

豊かな心が育つ環境づくりを推進するため、各教育施設の整備に努めます。

##### ⑤青少年の健全育成

豊かな創造性と郷土愛に満ちた子どもたちの育成に努めます。

## プロジェクト7

### 地域づくり

人のつながりが希薄化する時代にあって、支え合って生きていくことが大切になっています。

このため、子どもからお年寄りまでいつでも自由に学ぶことができる地域づくりが必要なことから、いきいきと心豊かに暮らせる町づくり、生涯学習やコミュニティづくりを推進します。

#### 〔1〕生涯学習の充実

人間性豊かな町民を育成し、活力ある町づくりをめざすため、関係機関、関連団体などと連携・協力しながら、生涯学習推進体制の整備・充実を図ります。

#### 〔2〕地域に根ざした文化・コミュニティづくり

地域の活性化を図るためには町民の参加を促し、コミュニティ活動を充実させることが大切です。そのため、地区活動推進協議会や各種団体の活動を支援し、それぞれの特性を生かした地域づくり事業の充実に努めます。

また、生涯学習としての芸術文化活動を奨励し、新規参加者の掘り起こしと指導者の育成を図りながら、各団体の育成・支援に努めます。

藤里町の貴重な財産である文化財・郷土芸能を次代に継承していくために、継承者の掘りおこしを図りながら、文化財・郷土芸能を学ぶ機会や場の拡充に努め、興味・関心の高揚を図ります。

##### ①地域住民によるコミュニティ活動の推進

地域コミュニティ活動の場である各地区集会所施設の維持管理を支援します。

##### ②学術文化活動の充実

各分野の著名人による文化講演を開催するなど、町民の知識と視野を広げる機会を拡充します。

##### ③文化財・郷土芸能の継承・保存

未来を担う子どもたちへの伝統芸能の伝承に努めます。





情 報 通 信

高度情報技術を  
活用するまちづくり

町民の安全性・利便性・快適性を第一に考え、  
さまざまな分野にて活用できる情報社会を  
実現します

## プロジェクト8

### 高度情報技術を活用する町づくり

藤里町内では携帯電話がほぼ使用可能となりました。

高度情報化社会において、インターネットの活用は様々な情報を知り得る身近な手段となっています。各公共施設の内外にて、町の最新情報や防災情報をアクセスできるシステムの構築をすすめることにより、行政情報の量と質向上に努めます。

また、町の最新情報の発信を速やかにするため、ウェブサイトを中心とした発信力を強化することで暮らしを豊かにし、コミュニケーションを活発化させる場と人づくりに努めます。

#### [1]町の情報発信事業の整備

##### ①公衆無線LANの整備

役場庁舎を中心とした各公共施設において公衆無線LANを構築することにより、常に住民生活に必要な行政情報や災害時における情報へのアクセスとモバイル媒体を活用したコミュニケーションの場をつくれます。

##### ②情報の発信力強化事業

町のホームページ発信の早さと分かりやすさを軸に、観光・福祉・生活に密着した情報を充実させ、さらに情報更新が速やかにできるウェブサイトの量と質向上に努めます。

ビジョン6

人口減少対策

まち・ひと・しごと  
総合戦略による町づくり

「住みたい、帰りたい、住み続けたい」  
町を目指し、最適な人口安定戦略を  
迅速に進めます

## プロジェクト9

### 藤里に住み、働く若者を増やす

人口減少の最も大きな要因は、高度成長期の都市部への産業集積など一方的な人口流出を生む社会構造にあります。昭和30年以降、若者が就職で町外に流出し続けてきたことで明らかです。町内での経済循環は流出傾向となり町の産業は衰退し、町内で働こうとする有為な人材の受け皿も減り、意欲ある者も流出するという悪循環にあります。

この悪循環から抜け出すには、定住を可能とするしごとを創出しなければなりません。そのためには、町の基幹である農林業を軸とした強みを磨きつつ、新たな価値を付加するチャレンジが必要となります。新たな価値を生み出すには、地元人材が多様な専門家と結びつき、柔軟で軸ある最適戦略を進める必要があります。大館能代空港の近接地という立地を生かして、人材往来を盛んにし各地と繋がっていきます。また、お金が地域で循環し、なるべく藤里町内にとどまる仕組みの構築も必要となります。

#### 〔1〕創業・新業務へのチャレンジ助成

- ①創業にかかる費用や新たな事業開拓に向けた資金の支援や企業の連携を促進することにより、藤里ブランドを生み出し、より稼げる仕事に成長するとともに地域産業を創出します。
- ②町特産品登録制度を創設し、町内外に向けたPR、売り込み活動を行います。
- ③高品質なブランドづくりに努め、高品質なものほど町内での提供を心がけ、地域の自然や人的資源などを含めたストーリーのある藤里ブランドの提供を行います。

#### 〔2〕未利用材の活用と地域経済循環の促進

- ①森林資源と林家の後継者、林業家を育成し、将来の山の保全と住民の副業とする仕事をつくります。
- ②未利用材を売り払った対価を町内で利用できるお買い物商品券で発行することにより、町内の消費喚起につなげます。

#### 〔3〕町内中学生・高校生の企業体験機会の創出

- ①地元の産業や企業について体験学習的に学ぶことより、子どもにとっても企業にとっても若者の労働や就労志向を学び、働きたくなる職場づくりに生かします。

#### 〔4〕企業連携による安定雇用の場の創出

- ①複数企業が必要とする労働を持ち寄り、通年仕事にすることで雇用環境を整え、労働力を確保するとともに地元就労と移住促進につなげます。

#### プロジェクト10

### 移住者を増やす

将来的に人口を食い止め、安定継続するには外からの移住による人口増が不可欠な状況となっています。しかし、誰でも良いということではなく、藤里の暮らしに共感し、共に作り上げていく方々に移住していただきたい。共感からつくられる景色は、人の温もりを里山にもたらし、魅力の連鎖が生まれていきます。

そのためには、「誰が」というターゲットを明確にし、ライフステージに応じた的確な移住者を増やす取り組みを講じていきます。外から移住してもらう方法として、Uターン、Iターンの他に、近年は孫ターンという動きも見えつつあります。

#### 〔1〕ふるさと風景の選定と景観保全助成

- ①藤里らしい里山景観や田園風景を守るために、耕作放棄地の流動や活用を促進します。
- ②耕作放棄地の活用により、農業の活性化やマルチワーク、生涯現役の仕事づくりにつなげます。

#### 〔2〕移住支援員の配置と移住者向け住宅の整備

- ①専属の移住支援員の配置について検討します。
- ②空き家の掘り起こしを行い、空き家バンクにつなげるとともに、地元集落への紹介や移住後のサポートを事業化します。

#### 〔3〕藤里暮らしの掘り起こしと提案

- ①藤里町を想う力を再生し、人を呼びたくなる、ふるさとを出た人が帰ってきたいくなる未来の藤里町をつくるため、足元から見直し、住民の想いを再生するための事業を実施します。

## プロジェクト11

### 出生率を増やす

外からいくら移住してもらっても、藤里に住む人が子どもを産み、育てたいと思える場所ではなければなりません。そのために特に子育て世代の女性にターゲットを置き、産み育てたいと感じるまちづくりを進めます。

#### [1]地域貢献型奨学金の創設

- ①奨学金を借りやすくするとともに、地元貢献度による金額や回数の見直し制度や奨学金の返還に対する助成制度を創設し、地元就労を促進するとともに地元に対する愛着度の向上を図ります。

## プロジェクト12

### 藤里に住み続けたい人を増やす

「藤里に住み、働く若者を増やす」「移住者を増やす」「出生率を増やす」プロジェクトの実現のために、その基礎として、藤里に住んでいる人がいつまでも健康で、安心して暮らし続けられる環境づくりをめざします。

#### [1]往診医療体制の構築

- ①医師や看護師を雇用し、各地区の集会施設で巡回往診ができる仕組みを構築します。

#### [2]地域公共交通の計画的な充実

- ①町民から来訪者までが安心して楽しめるまちづくりと一体となった公共交通ネットワークを構築し、町の活性化と車がなくても安心して暮らせる生活環境を創出します。

ビジョン7

行 財 政

町民と行政が一つに  
なってつくる町づくり

町民の意向が反映され、町民と行政が  
一つになって、藤里町独自の町づくり  
を実現します

## プロジェクト13

### 町民参加による町づくり

単独立町を宣言した藤里町は「ともに考え、ともに歩む」ことで、藤里町独自の町づくりを進めます。

そのためには、町民の意見を聴き、ともに分かち合うことが大切です。

さまざまな分野で町民が自主的・主体的に参加・参画する意識を高め、町民と行政の協働による町づくりを推進します。

また、ボランティア団体など各種団体の連携や相互協力を支援し、町民の自主的活動を促進・支援します。

#### 〔1〕町民の意見やアイデアを生かす機会の拡大

議会町民会議における意見や要望に対して、迅速に対処することに努めます。また、町民からの直接、間接的な要望に対しても速やかに対応します。

#### 〔2〕町民の自主的活動の促進・支援

各種団体、グループ単位等などにおける地域活性化を推進し、各種事業に対しての支援に努めます。

## プロジェクト14

### 効率的で自立した行財政運営

人口減少・少子高齢化社会に対応した地域づくりが求められています。町民の満足度を高めていくため町民に開かれた行政を推進し、常に行政改革に取り組み、きめ細やかな町民サービスの展開と効率的な行政運営に努めます。

財政運営は安定的な自主財源の確保に努めるとともに、国・県補助金の確保や地方債の計画的かつ効率的な運用を推進し、長期的な展望に立った財政運営に努めます。

#### 〔1〕単独立町で進むための行政改革の推進

常に社会経済情勢の変化に適応しながら、多様化する町民ニーズに対応し、行政改革懇談会を通して行政改革を積極的に推進します。

#### 〔2〕効率的な行政運営

多額の費用を投じてきた電算システムについては、県内全町村による「電算システムの共同化」を図り、コストダウンに繋がります。さらには、システムのクラウド化により災害に備えた体制を構築します。

また、固定資産台帳システムの整備や滞納徴収の強化により安定した収入確保に努めます。



————— 発 行 —————

**秋田県藤里町**

秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴8番地

TEL 0185-79-2111(代)

FAX 0185-79-2293

————— 編 集 —————

藤里町総務課

————— 発 行 日 —————

初 版 平成26年3月

第2版 平成28年3月